智頭小学校　学校だより

満天星（どうだんつつじ）

第８号
令和元年１０月２５日

命を守る防災教育
～初めての災害時児童引き渡し訓練を終えて～

校長　山﨑　泰央

この度の台風19号で亡くなられた方々のご冥福と被災された方々の一日も早い復興を心からお祈りします。近年、私たちが今まで経験したことのないような災害が次々と起こっています。今後、学校等でもしっかりと防災教育を進め、被害を最小限に食い止めるような取組を行う必要性が高まっています。

本校では、10月10日（木）に、初めての災害時児童引き渡し訓練を行いました。当日は、全てのご家庭が引き渡し時間内にお出でになり、無事全児童をご家庭にお返しすることができました。初めてのことでしたが、当日の車の渋滞や駐車場の混乱、引き渡し時の混雑等もなく、スムーズに訓練を終えることができました。これも保護者の皆様のご協力のおかげと感謝しています。

私は、3年前の鳥取中部地震での経験から、引き渡し訓練は是非とも実施しなければならないと考えてきました。2016年10月21日午後2時7分、「最大震度6弱」の鳥取中部地震が起こりました。その時のことは今でも鮮明に覚えています。校舎が揺れ、建物がきしむ音がして、いつもの揺れとは違う命の危険を感じました。誰もが机の下に潜り揺れがおさまるのを待ちました。揺れがおさまった時がありましたが、避難途中に揺り戻しがあるかも知れないと思い、避難指示の合図を出すタイミングを必死で探りました。「誰一人として命を失う者があってはいけない。校長として判断間違いは許されない。全員無事に避難させたい。」という思いを強く持ち、天に祈りました。何とか揺れがおさまった時に全員無事に避難することができ、ほっとしました。校庭に避難したとき、私の不安とは裏腹に青空の広がる空をうらめしくも思いました。それから、校舎に戻って下校準備をするために、近隣の学校や地教委と連絡を取りながらタイミングをうかがいました。子どもたちがいったん校舎に入り全員が中庭に揃うまでの時間はそれほど長くはなかったのですが、私にとって、それはそれはとても長い時間に感じました。子どもたちの緊張や恐怖心も、いつもの防災訓練とは違い並大抵ではなかったと思います。この時のことから、災害時等の子どもの安心・安全を守る方法の一つとして保護者への児童引き渡し訓練が必要であると考えてきました。

10月11日には、東日本大震災で被災した小学校の避難に対しての判決も出ました。防災対策は、行政・学校・地域が一体となって取り組んでいかなければならないと考えます。これからも、子どもたちの安心・安全を最優先していきたいと思っています。今後とも保護者・地域の皆様のご協力を宜しくお願いします。